

## 論文要旨

学生番号：M98-4802

氏名：鈴木 久義

所属専攻：保健体育

### 論文題目：作業療法士の職業性ストレスと精神健康に関する研究

【目的】NIOSH 職業性ストレスモデルに立脚しつつ、作業療法士集団の精神健康状況を明らかにし、かつこの集団に働く職業性ストレスの同定を行う。

【対象】首都圏 1 都 6 県に在勤する臨床作業療法士 440 名を系統的無作為抽出法によって抽出した。

【方法】抽出された対象者に対して、①基本的属性項目②CES-D③ストレスチェックリスト④MBI-HSS から構成された調査票を郵送し、教示通り回答後に再度返送させる郵送調査法を使用した。

【結果】CES-D 値の平均は 12.2 点で全体としては抑うつ傾向が低かったが、16 点以上 21 点の「抑うつ傾向あり」群が全体の 38 名(13.1%)、22 点以上の「抑うつ状態」群が 33 名(11.3%)存在していた。また、ストレスチェックリストでは作業療法士の職業性ストレスとして「職場の人間関係」因子など計 14 因子が抽出された。さらに MBI-HSS では情緒的疲弊サブスケールの平均値が 27.6(SD=10.7)、離人化サブスケールで 4.9(SD=4.52)、自己成就サブスケールで 28.7(SD=7.91)であり、情緒的疲弊サブスケール及び自己成就サブスケールで正規分布の上 1/3 に属していた。分布を検討すると情緒的疲弊サブスケールでは正規分布の上 1/3 に 148 名(50.9%)が属しており、自己成就サブスケールでは正規分布の上 1/3 に 204 名(70.1%)が属していた。各属性間・各スケール間で相関関係を検討すると、いくつかの変数間で統計学的に有意な相関関係にあることが明らかとなった。しかし、各勤務領域間で Burnout 度に差は認められなかった。さらに抑うつ度を従属変数に、Burnout 度や個人的要因、ストレスチェックリストの得点などの変数を独立変数として投入した重回帰分析の結果、個人的要因や職業性ストレス、Burnout 度が抑うつ度に影響するという因果モデルを作成し得た。また、本因果モデルの説明率も高いものであった。また、作業療法士の精神健康を脅かす職業性ストレスとして「職務の困難性」など 6 要因が考えられた。

【考察】今回の対象者は約 1/4 の者(71 名, 24.4%)が抑うつ的な状況にあることが判明し、職業性ストレス反応としての Burnout 度が比較的高い程度であることが明らかになった。しかし、勤務領域間で Burnout 度に統計学的に有意差は認められなかった。さらに重回帰分析の結果から、作業療法士の精神健康を脅かす職業性ストレスとして 6 要因が抽出・検討された。